

◆ 姫路市立船場小学校でバリアフリー教室を開催しました

企画推進本部 交通環境室では、高齢者や障がい者の疑似体験・介助体験を通じて、バリアフリーの理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者や障がい者に対して自然に快く「お手伝いしましょうか」と声をかけてサポートのできる「心のバリアフリー」を推進しています。



楳氏との交流の様子

今回は、令和3年12月9日（木）に姫路市立船場小学校の小学4年生66人を対象に、障がい当事者の姫路市視覚障害者福祉協会 会長 楳（はりのき）氏を交えて「バリアフリー教室」を実施しました。



視覚障害者体験の様子

最初に、「バリアフリーって何だろう？」を題材にした講義を行い、身の回りにあるバリアや心のバリアフリーとは何かについて考える機会を設けました。次に、楳氏から、事前に子供たちから募った質問に沿って体験談を話していただきました。その後、「車いす体験コース」「視覚障害者体験コース」「ノンステップバス乗降体験コース」の3つの班に分かれて体験学習を行いました。

「車いす体験コース」では、車いすの基本的な操作方法、介助時の注意点などを職員が説明した後、実際に体験することで車いすの安全な使い方や困っている利用者への介助方法等について理解を深めていただきました。



車いす介助体験の様子

「視覚障害者体験コース」では、視覚障害者誘導用ブロック（線状ブロック・点状ブロック）の意味や白杖の使い方の説明を行った後、アイマスク・白杖を使用して、一人で歩く体験・一人で視覚障害者誘導用ブロック上を歩く体験・介助してもらって歩く体験の比較体験を行い、介助の必要性について実感していただきました。

体験の待ち時間には、視覚障害をもっておられる楳氏を囲んで交流を行いました。子供たちが積極的に質問をしていた姿が印象に残っています。

「ノンステップバス乗降体験コース」では、神姫バス株式会社のご協力を得て、西日本初の水素で走る燃料電池バス（水素バス）を使用させていただきました。神姫バス株式会社のスタッフが講師となり、ニーリング（乗降時に車高を下げる装置）や車いす用スロープの架設の説明をした後、車いす体験者を介助しながら乗車し、車内で車いすを固定するまでの一連の流れを実演していただきました。

また、このバス車内の様々な設備が誰でも利用しやすいようにどのような工夫や配慮がなされているかについても説明をしていただきました。

さらに、職員がこのバスが環境にやさしい乗り物であることも説明し、公共交通への関心も促しました。

※燃料電池バス・・・水素と空気中の酸素の化学反応で発電した電気を動力として走るバス。二酸化炭素を排出せず、環境性能に優れている。



燃料電池バスの外観



ノンステップバス体験の様子

教室後にいただいた感想では、「車いすの操作が難しいことが分かった」「白杖を使うとき、一人で歩くのが怖かった」「ノンステップバスやスロープなどの工夫が分かった」「お手伝いをしましょうかと声をかけていきたい」などがありました。

本教室で、障害者・高齢者の気持ちを理解するとともに適切な介助方法を学ぶことで、手助けしようという気持ちを持ってもらうことができたように思います。

今後も関係者と連携を図りながら、「心のバリアフリー」の推進を図っていきます。

（企画推進本部 交通環境室）